「製油所の重合ガソリン装置の運転改善に関する共同事業」LOI署名式の開催（カタール）

カタール石油と日本の署名式出席メンバーによる集合写真

JCCP は、平成 25 年度に 2 つの共同事業「製油所の重合ガソリン装置の運転改善に関する共同事業」及び「製油所の排水再利用に関する共同事業」を開始しており、平成 25 年 7 月 2 日にカウンターパートであるカタール国営石油会社（QP: Qatar Petroleum）と LOI 署名式を開催しました。今回調印した 2 事業の背景・経緯及び事業概要を以下に紹介します。

1. 背景・経緯および事業概要

(1) 製油所の重合ガソリン装置の運転改善に関する共同事業

メサイード製油所では、重合ガソリン装置（Catalytic Polymerization Unit）にて、RFCC 装置の軽質オレフィンからガソリン基材および LPG が製造されています。しかし、同装置において所定の反応率が達成されていない問題が生じており、QP から、この問題の要因の検討と、それを踏まえた製品 LPG 収率の改善について協力の要請がありました。これを受けて、本事業では、関係する LPG の水素化処理設備や LPG の分離設備等の運転データの解析による設備性能チェックにより、問題点を明確にした上で設備の改造案を提案し、製品 LPG 収率の改善を図ることとしています。

(2) 製油所の排水再利用に関する共同事業

メサイード製油所では、既存排水処理設備で処理困難な排水がラグーン（貯留池）に貯留されていますが、その貯留排水の地下浸透による汚染や貯留排水のオーバーフローなどが懸念されており、QP から、この問題への対応について協力要請がありました。これを受けて、本事業では、ラグーンへの流入排水の発生源とその性状を特定した上で、最適な排水処理方法を検討することとしています。

2. 署名式の状況

署名式は QP 本社で開催され、QP からイシャク取締役（Mr. Hussain M. H. Al-Ishaq, Director, Refining）、在カタール門司大使他、本プロジェクトに関与する各部門の責任者、事業実施会社であるコスモエンジニアリング㈱平城取締役および水 ing ㈱塩野常務執行役員らの参加を頂き、イシャク 取締役と JCCP 吉田常務理事が、LOI に署名しました。署名式では、まずイシャク取締役から、これまでの JCCP との共同事業の成果についての謝辞が示されるとともに、この関係を継続して頂くようお願いしたいとの、感謝と期待を込めた挨拶がありました。次いで門司大使からは、JCCP の技術協力事業等の実施が、特にエネルギー分野に於けるカタールと日本の緊密化に大いに役だっていることは、非常に喜ばしいことであり、大使館としても出来る限りの支援を行いたい、との挨拶を頂きました。また、吉田常務理事から、JCCP はカタールで過去多くの事業を実施してきており、新たに QP と共同事業を実施する事になったことは、非常に意義深いことであり、これらを通じて、両国の友好関係の維持・拡大に一層努めていきたい旨、述べました。平城取締役からは、QP に対し、2006 年以降、共同事業を実施してきたことに対する謝意とともに、今後とも技術的な貢献に加え、人的な交流にも寄与したい旨、話されました。また、塩野常務執行役員からは、製油所の排水再利用について QP と事業を行えることは、大変光栄であり、この事業を通じてカタールの今後の発展に寄与したい旨、話されました。その後、LOI への署名及び記念品交換が行われ、署名式はな

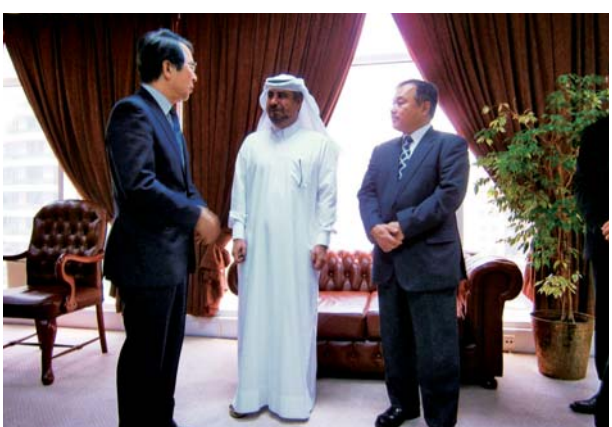
ごやかな雰囲気のもと、無事終了することができました。署名式終了後、会場に近いイシャク取締役の執務室に案内され、門司大使、吉田常務理事の三者で和やかに歓談が行われました。今回の２事業の成果に対するQPの期待は高く、事業の実施を通じて双方の友好関係の発展に資することと思われます。

署名後のLOIを交換するイシャク取締役と吉田常務理事

3.　まとめ

今回の署名式は、QPが十分準備した上で実施され、多くの関係者の出席もあり、本事業への関心の高さ、また日本への期待が非常に高いことが伺われました。日本とカタールが共同で実施する本２事業が、成功裏に完了し、両国の友好関係の更なる発展につながることを願っています。

（技術協力部　横塚 正俊）



署名後のイシャク取締役との歓談（中央）